

教職員のための SSR通信集



本通信集はプロジェクト研究会での学びをまとめたものです。
トータルアドバイザーや専門委員の先生方からのコメントも掲載しています。
ぜひ御活用ください。



教職員のためのSSR通信

令和6年（2024年）7月18日発行号



先日は第2回プロジェクト研究会にご参加頂き、ありがとうございました。短い時間でしたが、非常に有意義な時間になりました。今後教職員のためのSSR通信を発行していきます！！本通信では、研究会での学びや新たな情報を研究委員の先生方や実践校の先生方へお伝えできればと考えております。この通信が研究委員のみなさんの振り返りになるだけでなく、実践校のみなさんの学びの一助となれば幸いです。

今回第1号では、トータルアドバイザーの滋賀大学芦谷道子先生と専門委員の上村文子先生より本研究を進める上で重要となる視点について助言をいただいておりますので、共有させていただきます。

研究を進める上では各校から多くの実践事例を集め、その中からそれぞれの学校で児童に合う形を見つけていくことが大切です。各校の具体（部屋の様子や利用児童数等、可能な限り詳細な情報）を知る機会があるとよいでしょう。児童の内面を見取るうえで、評価指標を用いてエビデンスをとることも有効かもしれません。例えば「こころのダイアグラム」といった簡単な評価指標を活用して、入室時の気持ちと退室時の気持ちの変化を可視化してみる、といった取り組みです。SSR利用前後での変化を見取り、記録として積み重ね、長期間にわたってどのような意識の変容が見られたのか把握できるとよいですね。



トータルアドバイザー
芦谷道子先生



こころのダイアグラムについて

【活用してみよう】

記入することだけが目的ではなく、これらの項目から児童の心の状態を知ることが大切です！記入が難しい児童には口頭で気持ちを聞いてみたり、表情イラストを指さしたりするだけでもいいかもしれませんね。



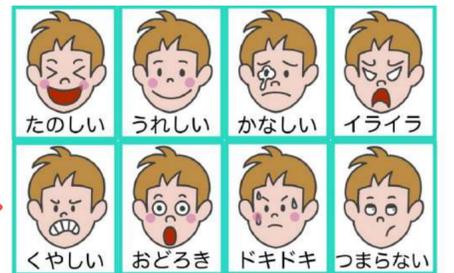
(高知家まなびばこ きもちメーターより引用)



(わくわく教材ランド 感情バロメーターより引用)

ほかにも

右のような表情イラストを教室のドアや壁等に掲示し、児童に心情と近いイラストを指ささせたり、マグネットを貼らせたりするのもいいかもしれません。



(やんちゃワーク 気持ちのカードより引用)

きょうのわたしノート 1~3年生用

きょうの日にち	月	日	(曜日)	時	分
・ねた時間 _____		おきた時間 _____			
・どれくらいねましたか? _____		・とちゅうでおきましたか? _____		はい	いいえ
・よくねましたか? (よくねた ・ ぶつう ・ あまりねていない)					
・夢の気持ちをかいたり、えらんだりしてみよう。					夢の気持ちは _____
					てん
かえり	夢の気持ちをかいたり、えらんだりしてみよう。				
きょうのふりかえり	ふりかえりを書きましょう。				

※ することが決まったら、先生に覚えてもらいましょう。ほかに、することに入れたいものがあれば先生

(本研究で作成した「今日のわたしノート」)

対象児童のアセスメントをする上で、背景にある見えづらい情報についての分析や見立てが重要となります。例えば安心できる環境づくりとして、物を整備しても、心がつながるかどうかは別問題です。また、人とのつながりは児童と教職員だけでなく、教職員同士のつながりも大切です。指導者自身に余裕がないとよい支援はできません。そのため、研究委員の先生方で何か困ったことがあれば、抱え込まず周りにどんどん助けを求めることが重要です！



専門委員
上村文子先生

☆お知らせ☆

- ・第3回プロジェクト研究会を8月19日（月）に総合教育センターにて実施します。教材教具についての情報共有や広島視察の報告等を予定しています。
- ・今月本研究に関する質問紙調査を行います。校内の先生方への周知のご協力をよろしくお願いいたします。回答の期日は7月末日とさせていただきます。

★SSRお役立ちリンク集★

下記QRコードを読み取っていただくと、SSRに関連する情報をご覧いただけます。



是非ご活用
ください

教職員のためのSSR通信

令和6年（2024年）8月27日 発行号



早いもので8月が終わろうとしています。先日は本研究に関わる教職員向け質問紙調査にご協力いただき、ありがとうございました。調査結果を学校ごとに集計し、8月19日の第3回プロジェクト研究会で結果についてお伝えさせていただきました。その結果も踏まえて教職員研修に活かしていただけると幸いです。また、研修会のサポートもさせていただきますので、お気軽に研究員までご相談ください。

今回の通信では第2回プロジェクト研究会での学びを共有させていただきます。

【第2回プロジェクト研究会】



6月24日（月）にオンラインにて第2回プロジェクト研究会を実施しました。この日は初めてのオンラインでの研究会でした。研究会は1時間半という非常に短い時間でしたが、研究委員の先生方から各校の取組と課題を発表していただき、トータルアドバイザーの先生や専門委員の先生からは指導助言をいただきましたので、内容を紹介していきます。

【研究協議に先立ち芦谷道子先生より】

ユニセフが発表しているレポートカード16によると、日本の子どもの身体的健康は38か国中1位である一方で、精神的健康は38か国中37位であり、自殺率の高さや自己肯定感の低さがみられます。コロナ禍以降、不登校の子どもたちの数が顕著に増えており、学校が安心、安全な場ではないと感じて、家に逃げ込んでいる子どももいるのではないかとされています。

子どもの幸福度ー38か国中、日本・米国の順位比較

国	総合順位	身体的健康		精神的幸福度		
		死亡率	肥満率	生活満足度	自殺率	
日本	20位	1位	9位	1位	37位	27位
米国	36位	38位	30位	38位	32位	30位

（資料）UNICEF（2020）Worlds of Influence - Understanding What Shapes Child Well-being in Rich Countries. 子どもの幸福度ー38か国中、日本・米国の順位比較

研究協議

「SSR運用に必要なルール作りと対象児童の考え方」について研究協議し、課題も挙がりました。

SSR運用に必要なルール作りと対象児童の考え方について

- 学習時のルールと休憩時のルールのそれぞれを作成している。
- 児童の実態や課題に応じて部屋を分けて運用している。野球の好きな児童のために教室内にバッティングネット等を設置したところ、楽しみに登校し算数プリントや家庭科の裁縫等にも取り組むようになった。
- 市の様式である個人ベースシートを活用し、児童の実態について、校内及び関係者と情報共有している。
- 保護者、担任、担当者と面談し、約束事を説明し理解いただいたうえでSSRを利用している。

児童の実態や環境設備、ルールやSSRを取り巻く校内体制等は学校により様々ですね。SSRを必要としている児童が適切に利用するためにも、教職員間の正しい理解や保護者への周知や説明がやはり大切ですね！

今後の取組及び課題について

- 教室内をパーティションで仕切っているが、休憩をしている児童の声が学習している児童に聞こえてしまうので、環境整備を工夫していく必要がある。
- 今後個別の指導計画や個別の教育支援計画のようなものを作成し活用できるようにしたい。
- 利用に係るルール作りをしたいが、どこに基準をつくるのか現時点では定まっていない。
- SSRを利用する児童の見極めが難しい。
- SSRの利用を解除する判断をどのようにすればよいか。保護者への周知の方法、児童への周知の方法についても検討中である。
- 対象児童(集団不安・学習不安・長期欠席者)、長期欠席、学校とつながりの弱い児童とどう関わっていくかが課題である。
- SSRの門戸を広げて活用していく方法、職員の理解をどう図っていくかが課題である。



研究員

研究会を通して



トータルアドバイザー
滋賀大学教育学部教授
芦谷道子先生 より

- ・学校独自のSSRの位置づけ、形作りをしていきましょう。**理念として何を大切にしていくかが重要**です。
- ・保護者に伝える**内容を精選**しましょう。
- ・ルール作りは、**大人がルールを作ってしまうのではなく、子どもと考えるのもよい**でしょう。
- ・SSRを利用する児童の**「選択」と「自己決定」**を大切にしましょう。
- ・SSRを利用する児童の**目標を決めることも重要**です。**長期的な目標に到達するために中期的な目標、今どんなことが必要なのか**を考えましょう。
- ・学習、登校、不安の大きく三つの対象があり、利用児童をひとくりにまとめるのは難しいです。**目的に応じて空間や時間を分ける**ことが有効です。また、個別と協働のブースを作るとよいでしょう。
- ・**学校でしかできない体験を保障**していきましょう。
- ・1対1の対応の際、児童からの求めにすべては応えられないかもしれませんが、**思いは受け止めてあげ**ましょう。**教師の不在時に耐えられるようにするための児童への言葉かけや関わり、関係づくりを日頃から意識**していく必要があります。

- ・児童のみならず、家庭全般のアセスメントの視点から**保護者への支援も必要**です。
- ・担任、SSR担当、管理職、福祉それぞれのアプローチの方法や頻度は異なります。**担当者がコーディネート**しますが、SSRの担当者が全てを囲い込み解決することがないよう、**チームで対応**していきましょう。
- ・学校に来られない児童は、要対協（要保護児童対策地域協議会）との連携、多様な支援ネットワークで支えていく必要があります。**SSRだけですべてを解決することは難しい**です。



専門委員
滋賀県教育委員会
滋賀県SSW SV
上村文子先生 より

チーム学校が基本！！

しかし学校だけでは限界があるケースもあります。
そのため日頃から関係機関と連携して
大きなチームで児童や家庭支援をしていきましょう。



研究員より

☆お知らせ☆

第4回プロジェクト研究会は、9月30日（月）
15：00～オンライン（ZOOM）にて実施します。
詳細は後日お伝えします。

★SSRお役立ちリンク集★

下記QRコードを読み取っていただくと、
SSRに関連する情報をご覧いただけます。



教職員用SSR資料

教職員研修

子どもたちが安心して成長できる
SSR(スペシャルサポートルーム)
を目指して

～ チーム学校で、誰一人取り残されない学びと居場所の保障を ～

SPEC 滋賀県総合教育センター
Shiga Prefectural Education Center

児童用SSR資料

SSR(スペシャルサポートルーム)
ってどんなところ？

～みんなが安心して学習できる部屋のお話～

本研究では教職員用と児童用のSSR説明資料を作成しています。是非ご活用ください！

教職員のためのSSR通信

令和6年（2024年）9月30日 発行号



新学期がスタートしました。9月は不登校が増える時期と言われますが、夏休み明けの子どもたちの様子はいかがでしょうか。9月から「**チーム学校**」「**チームSSR**」を合言葉に学校や関係機関が一丸となって児童支援に努めましょう。

今回の通信では第3回プロジェクト研究会での学びを共有させていただきます。**赤字の所は特に要チェックです！**

【第3回プロジェクト研究会】

【研究会内容】

- ①教職員対象質問紙調査結果報告
- ②教材教具の工夫について（研究協議①）
- ③2学期の取組に向けて（研究協議②）

8月19日（月）に総合教育センターにて、プロジェクト研究会を実施しました。今回は1日開催の研究会でしたが午前、午後ともに研究委員の先生方と熱心に協議、意見交流することができました。

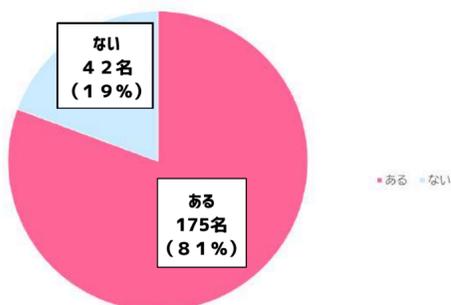
研究会の終わりには専門委員の先生方から指導助言や講義いただきましたので、その内容についても紹介していきます。

①教職員対象質問紙調査結果報告

ご協力いただきありがとうございました。

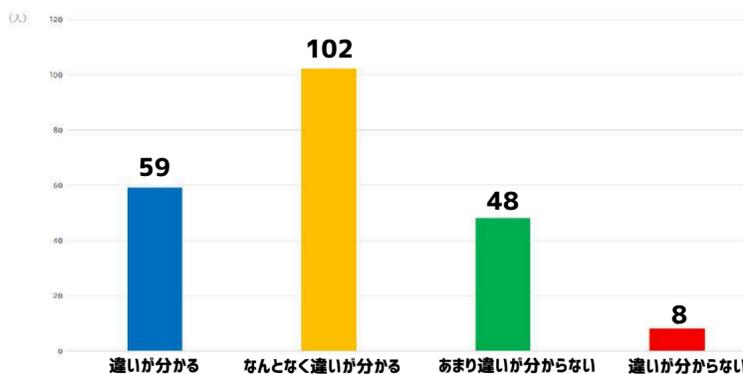
実施期間：令和6年7月4日～7月31日
実践校7校、計217名の先生に回答いただいたデータを集計しました。

校内教育支援センター（SSR、校内フリースクール、大津市では校内ウイング等）という言葉について、今までに見聞きしたことはありますか。



約19%の先生が今までにSSRについて見聞きしたことがないと回答されています。各校ごとにSSRに名称を付けて呼んでいることもあり、自校の呼び名で問われれば認知は上がるものと思われそうですが、一方で自校の取組として説明されていても教職員に認知されていないケースも考えられます。

従来の「別室指導」と「SSR」との違いについて知っていますか。



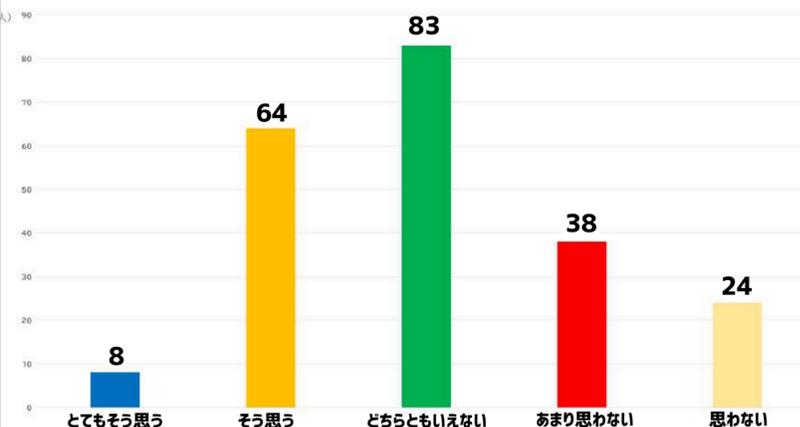
従来の「別室指導」と「SSR」の違いについては、約26%の先生が「(あまり)違いが分からない」と回答されており、SSRの価値付けを行い、広く周知する必要があると言えます。

7月時点の先生方のSSRに対する認知や現状についてうかがうことができました。各校それぞれで呼び名の違うSSRですが、広く周知し必要とする児童が安心して利用できるように、本研究も尽力していきます！



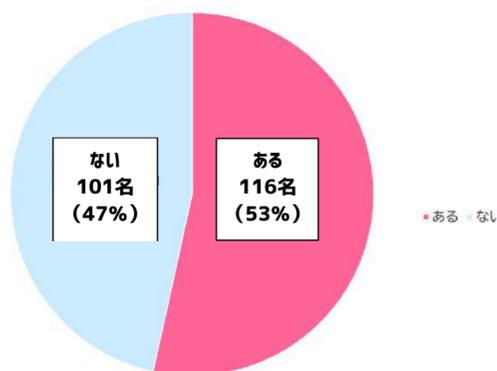
研究員より

不登校傾向はないが学級で落ち着かない児童もSSRの対象である



この項目については認識が分かれており、「**学級集団にうまく適応できていない = SSRを利用させる**」という認識をもっている先生がおられると考えられます。特別支援の観点からも、何が原因で落ち着かないのか、適切に**アセスメント**していくことが求められます。

自校のSSRにおいて、課題はありますか。



この項目については半数強の先生方が、自校のSSRにおいて課題を感じておられます。7校で多く聞かれた課題は、右記のようなものが挙がっています。

具体的な課題

- 児童への支援のあり方
- 指導者側の人員不足
- SSR担当教員以外の関わり
- 校内における情報共有のあり方
- 保護者等への周知理解

②教材教具の工夫について (研究協議①)

研究協議①では、各校で取り組まれている実践について、写真等のデータを本研究の3つの要素【**人とのつながり**】【**安心できる環境づくり**】【**周囲の理解**】の観点でそれぞれホワイトボードに分類し、それをもとに情報交流や協議を行いました。

【人とのつながり】



【安心できる環境づくり】



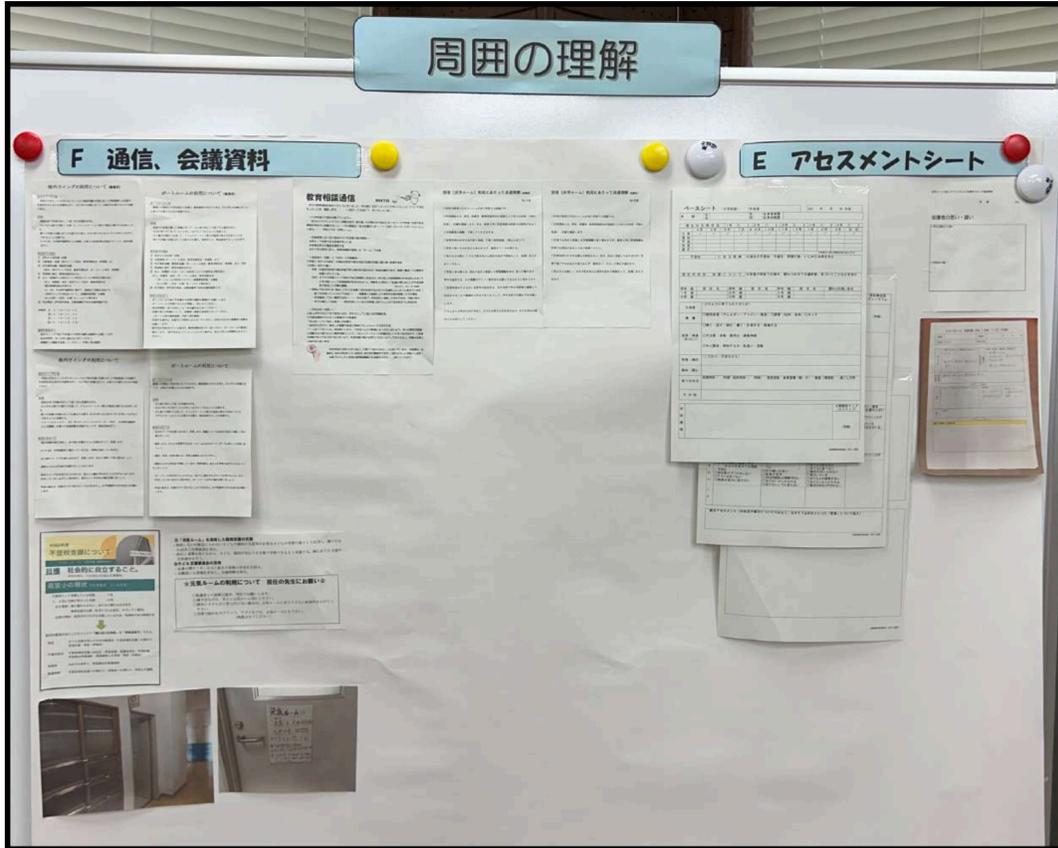
- 全ての学校で、児童がSSRを利用する際の時間割（その時間にすること）を記入するようにしている。
- その日の振り返りを書く欄を設け、SSR担当だけでなく担任の先生にも見てもらう。その際に、コメントを入れてもらい交換日記のような形で使うことで、担任の先生とのつながりも生まれる。
- 1日の予定を立てる際に、教室に入れそうな時間（変更可能）には印をつけるようにしている。
- 他の先生がSSRの児童を見る際、児童の動きが把握できるように一覧表を作っている。

- どの学校も個別学習スペースと協働学習スペースを設けている。
- 人と関わることに抵抗がある児童について、その日の気持ちとしてSSR担当者以外の人と関われるかどうか分かるように、部屋の入口の扉にマグネットを貼り、その日の意思表示をしている。
- 来室した日はカレンダーにシールを貼り、登校できたことについて達成感を感じられるようにしている。
- 安心してくつろぐために、じゅうたんや畳など靴を脱ぐスペースを準備したり、ゴロンと寝転がれる（リラックスして座れる）ソファを設置したりしている。
- 部屋が複数使用できる学校では、児童の様子や状況に応じて部屋の使い分けをしている。

研究協議の様子



【周囲の理解】



- ・アセスメントに関して、県が作成したシートを使っている学校、市町や各校独自で作成したシートを使っている学校がある。
- ・SSR利用時に保護者と懇談し、保護者の思いや願いをシートに記入してもらうようにしている。
- ・各校、教職員間でSSRについての説明がされている。資料提示や具体的な関わり方について共通理解を図られているが、周知が十分に進んでいない学校もある。
- ・教育相談通信を発行して、教職員へSSRの周知を進めている。
- ・SSRがどのような場所か分かるよう、児童向けに説明したポスターを教室の扉に貼り、児童から見えるようにしている。

まとめ

【人とのつながり】

- ・その日の時間割を教師と相談しながら児童が自己決定している学校がほとんどでした。自分の決めた時間割に沿って1日を過ごすため、児童の**安心感**につながっているようです。「**自分の立てた時間割をやり遂げることができた**」という達成感の積み重ねが自信となり、**次につながっていく**ように思います。
- ・1日の振り返りを通して、教師と児童がやりとりするのも大切ですね。

【安心できる環境づくり】

- ・各学校ごとに日々試行錯誤しながら児童に合わせた教材づくりや環境整備をされています。児童にどのような力をつけたいのか。そのためにどのような手立てを講じるのかを教師が常に考え整備していくことが大切です。

【周囲の理解】

- ・教職員やSSRを利用する児童がSSRについて正しく理解するところから始まります。その後、通信や入学説明会等で保護者にも周知していくことが大切です。
- ・不登校支援、児童理解を進めるうえでアセスメント&プランニングは不可欠です！

SSR担当教員だけに負担がいかないように、
できることからチームで協力して
進めていきましょう。



③ 2学期の取組に向けて (研究協議②)

研究協議②では

- ①児童のアセスメントを進める際、気を付けていること
- ②校内での会議について(メンバー、時間、進め方など)
- ③SSR担当として今後工夫していきたいこと

上記3点についてグループに分かれて協議しました。



①児童のアセスメントを進める際、気を付けていること

- ・複数の教員で見立ての共有を行う。また、児童の行動の背景を読み取る。
- ・現在の児童の実情だけでなく、過去の情報や児童を取り巻く家族構成、家庭環境等に関する情報も収集し、それを基にアセスメントを行う。保護者の生育歴等も重視する。
- ・**児童の思いや言葉を大切にしながら情報共有、連携する。その際本人の思いと保護者の思いにズレがないか等把握する必要がある。**
- ・SCのアセスメントを聞き、SCにつながっていない家庭にはカウンセリングを勧める。

②校内での会議について (メンバー、時間、進め方など)

- ・会議は定例(週1回~月1回)実施が多く、各校不定期の会議も実施している。
- ・会議に参加するメンバーは、主に校内からは管理職、教務主任、生徒指導担当、通級指導担当、特別支援Co、SSR担当者、担任、SC、SSWなど。外部機関は必要に応じて声をかけている。
- ・児童の情報共有や課題の整理、支援の仕方の検討や各教員や関係機関の役割分担を行っている。他にも会議の時短を図るため事前に情報をまとめた資料を配布している学校もある。

③SSR担当として 今後工夫していきたいこと

- ・教職員への周知、理解の啓発を行う。
- ・適切な支援が行える指導体制を整える。役割分担の明確化。
- ・学習環境の充実。(オンライン学習も見据えたネットワーク環境の構築)
- ・全校児童へのSSRの周知。また、SSRを利用している児童以外の保護者への周知。
- ・登校ができていない児童へのアプローチと支援。
- ・不登校だけにとどまらず、学級に居づらさを感じている児童にも支援を広げていけるよう校内会議や体制を整える。
- ・児童が安心して過ごせるように、見通しを持たせる。自己決定させる。つぶやきを拾えるようにする。
- ・アセスメントシートを活用し、記録とプランニングを再検討する。児童の目標やゴールを明確にする。
- ・担任との情報共有(登校した日の様子や記録)を密に図る。

【研究会を通して、 専門委員の先生より】

- ・不登校対策の基本はアセスメントにあります。滋賀県教育委員会としては児童生徒の欠席が5~7日続く場合は、背景や理由、原因についてケース会議でアセスメントを行うことを推奨しています。また、個々の状況に応じたより質の高いアセスメントのために、ケース会議は複数の教員や関係者によって行います。そのうえで、子どもと保護者の思いを聞き取り支援していきますが、最終的な答えは子どもが出せるようにします。
- ・教職員へのSSRの周知については、常日頃から繰り返し話をしたり研修会を開いたりして行っていくことが望ましいです。また、日頃から学年で話をしておくことも大切です。
- ・情報共有の一例としてExcelシートを活用するとよいです。その日の子どもの様子や家庭の様子等をシートに記入し、そのファイルデータを校務のサーバーファイルにアップすることで、校内の教職員間で情報共有を容易に行うことができます。



滋賀県教育委員会
幼小中教育課
田中哲郎主査より

- ・不登校支援で大切なことは、「現在不登校にある子を重症化させないこと」と「顔が見えるようにすること」であり、どこかで学校や外部機関と接点を持たせる必要があります。
- ・「安心できる場所や居場所」ということに目が行きがちですが、そもそも「安心安全というのは与えるものではなく、子ども自身が感じること」であり、子どもがどのように捉えるかが重要となってきます。
- ・SSRは家庭で言うリビングのような場所で、心身の充電をするサードスペースのような場です。充電したら学級へ行き、疲れたらSSRへ戻ってくるようなイメージで考えてもよいのではないのでしょうか。また、その際学級が温かく受け入れてくれる雰囲気であることも非常に重要です。
- ・SSRは、児童にとって安心できる居場所ですが、最低限の基礎学力を保障する必要もあります。
- ・広島の報告の中にあつた、「信じる」や「待つ」というのは、「子どもの力を信じる」ことであり、非常に重要なことです。
- ・児童のアセスメントを進める上で重要な視点は、ICF(国際生活機能分類)にある、個人因子と環境因子について見取っていく必要があることです。特に父母の成育歴等までさかのぼり考えることが非常に重要です。
- ・SSRの児童に限った話ではないですが、現代は感情の言語化が苦手な子どもたちが多く、「きもい」や「うざい」といった言葉で全てを片付けてしまいます。家庭で感情の言葉をやり取りする機会が少ないため、学校環境で適切に表現できるように支えてあげてください。感情を受けとめてもらえる経験が、非常に大切です。



専門委員
滋賀県教育委員会
滋賀県SSW SV
上村文子先生より

★SSRお役立ちリンク集★

下記二次元コードを読み取っていただくと、SSRに関連する情報をご覧いただけます。



非常に学びの多い研究会になりました。最初は研究委員の先生方も緊張した様子でしたが、いざ研究協議が始まると日々の実践やそこにかかる思い、そして悩み等の話が出てきました。同じ立場だからこそ共感できることが多々あったと思います。専門委員の先生方からも心に響くお言葉やお話をたくさんいただきました。まずは目の前の子どもたちにできることを一つずつ丁寧に取り組んでいくことが重要ですね。困ったり悩んだりした時は、研究員へご相談ください！
学校を越えたつながり、チームSSRをこれからもどんどん頼ってくださいね。



研究員より

教職員のためのSSR通信

令和6年（2024年）11月1日 発行号



厳しい暑さが続いていましたが、一転して冬の寒さを感じる季節になりました。学校では運動会や修学旅行など大きな行事も終わり、新たな目標を立てて2学期後半に臨まれることと思います。寒暖差や学校行事後の疲れ等もあるかと思いますが、子どもたちの様子はいかがでしょうか。先生方に置かれましても、どうぞご自愛ください。

さて、今回の通信では第4回プロジェクト研究会での学びを共有させていただきます。

【第4回プロジェクト研究会】

9月30日（月）にオンラインにて第4回プロジェクト研究会を実施しました。前々回の研究会と同様に1時間半という非常に短い時間でしたが、2つのテーマについて研究協議を行い、トータルアドバイザーの先生や専門委員の先生から指導助言をいただきました。

研究協議①

今後どのように職員へSSRについての周知を継続していくか

研究委員の先生方から

- 職員研修を実施している。
- 校内で教職員向け通信を発行し、周知につなげている。
- 子どもを語る会で定期的に教職員へ周知している。

なぜ「周知」にこだわるの？

継続的な教職員への周知が重要

SSRを利用する児童が学級とつながるためには、SSR担当者と学級担任の連携は不可欠！このことが未然防止にもつながっていきますね！



研究協議②

不登校の未然防止に向けて

研究委員の先生方から

- 学級担任が児童の変化をキャッチし、不登校傾向が見られたら、計画的にSSRにつなげたり、SSR担当が教室の様子を見に行ったりするなど、学校として早期対応をしている。
- 学力の向上も大切だが、人とつながる(コミュニケーション)力を高めていくことを重視し、その子に応じたソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。
- 児童との関係づくりが大切。気持ちを理解し、受け止める工夫(表情カードを持ち歩く等)をしている。
- 気になる児童の様子があれば、学年で話題にしたり、家庭訪問をしたりと、チームとして対応するようにしている。
- 教職員用トイレにSSR新聞を掲示するなど、目につきやすい場所に情報を示し、情報の周知を図っている。
- 「必ずしも教室に行かなければいけない訳ではない」ということを児童に伝えたことで、児童の安心・安全につながり、登校日数が増えた事例もあった。

協議の中で挙がった課題や悩み

- 教職員間の周知が進むことでSSRの対象となる児童の話ができています。その中で、児童個々の思いを尊重し、教室復帰のみを目的としないことは理解しているものの、担任として「教室に戻ってきてほしい」という思いも聞く。
- 1学期はSSRを利用しつつも教室に入れていた児童が、2学期に入り常時SSRのみを使用する形になっている。(夏季休業明けの影響や運動会等の秋の学校行事の影響もありそう。)
- SSRを利用しているからSSRにお任せというのではなく、学年の児童として、SSR利用児童をどう支援していくかを考える必要がある。
- 初任者や若手の先生など、経験年数の浅い先生にも児童の変化のサインを見極めてもらわないといけないが、児童による違いもあり、具体的に「このような時には…」ということが伝えづらい。また、経験豊富な先生であっても、今までの経験則が通じない児童もあり、どうすればよいのか判断が付きにくいこともある。



【専門委員、トータルアドバイザーの先生より】

- ・児童にとって「明日も来たい」と思えるような**魅力ある学校**にしていくことが、**不登校の未然防止**につながります。
- ・不安や悩みを抱えている子はSSRに来ている子だけでなく、他にもいると予想されます。そのため、困った時には「この部屋に来ればいいんだ」ということを**全ての子どもたちが認知できるように知らせていくことが重要**であると考えています。
- ・滋賀県教育委員会が主催する「しがの学びと居場所の保障推進会議」には、様々な立場の方が参加されており、その中で不登校の経験がある当事者の方が「**教室に入れなかった理由を教職員からしつこく聞かれることが非常に苦痛であった**」と話されていました。子どもの状態に寄り添った支援を進めていくことが、非常に重要です。



- ・不登校の未然防止の視点として、**空間（スペース）の居場所よりも、関係性の安心・安全な居場所が学年、教室、学校体制になれば、すべての子にとって行きたいと思う学校にはなりません。**特別支援教育の視点と同じで、**困難な状況にある子にとっての安心・安全な学校は、多くの子にとっての安心・安全につながります。**子どもは分断されていることに敏感です。SSRが安心安全な場であることはもちろんですが、**学校全体が安心・安全であることが重要**となります。
- ・**担任の思いや保護者の思いより、子どもの思いが一番大切**です。そのための**確かなアセスメントが必要**になります。「今どうしてSSRを利用することが子どもにとって有用であるのか」について根拠をもとに考えることが大切です。例えば発達に課題がある児童の場合、事案が生じると切り替えに時間がかかるため、児童の中に安心安全が確保されるまではSSRの様子をみましょう、というように児童にとって**最善を考えることが重要**です。



- ・学級担任とSSR担当者間で児童の見立てにずれが生じないように、連携し話をすることで見立てについて共通理解を図ることが重要となります。児童の成長について考えた際、図1「活動領域の水準」のように、現在の状況を確認し、「**少し頑張ることで到達する成長チャレンジゾーンを目指そう**」という目標を、**保護者も含めた関係者で協議し共通認識を図ることができるとよい**でしょう。その際、**支援のレベルを段階分けした物差し（指標）**を作るとよいと思います。児童の状態をその物差しと照らし合わせて共通理解を図り、一貫した対応をしていきましょう。
- ・「不登校の未然防止」については、図2の「生徒指導の2軸3類4層構造（改訂版）」にある**第3層**にいる**ハイリスクの児童の状態を早期に見取り、早期に対応することが大切**であるのと同時に、**ユニバーサルな視点で全ての児童（第1、2層）に対しても、学校や学級が楽しくイキイキと自分の力を発揮することができる安心・安全な場所にする必要があります。**そして、**児童のウェルビーイング、自己肯定感をどう底上げしていくのか**を考えていくことが鍵を握ります。



「すべての児童にとって、安心安全な学校、学級づくり」というユニバーサルな視点に立って、考えていくことが非常に重要ということですね！

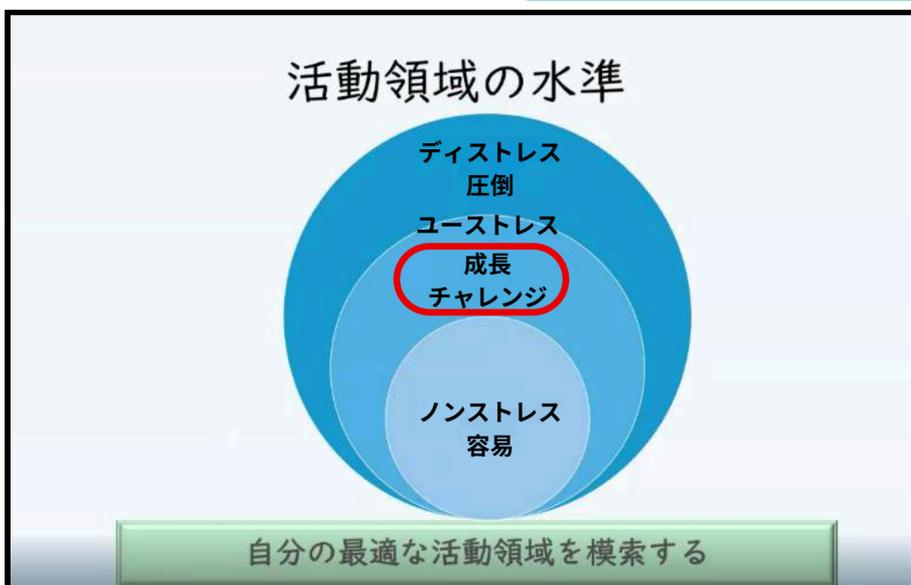


図1 活動領域の水準

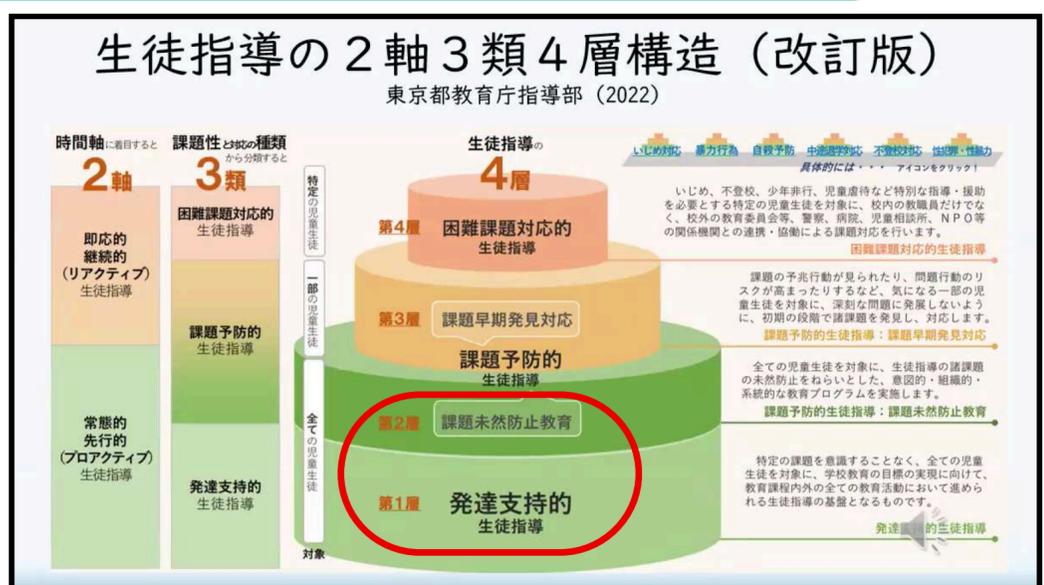


図2 生徒指導の2軸3類4層構造（改訂版）

☆お知らせ☆

教職員向け質問紙調査(終期版)にご協力いただき、ありがとうございました。
集計データは後日お伝えさせていただきます。

★SSRお役立ちリンク集★

下記二次元コードを読み取っていただくと、SSRに関連する情報をご覧いただけます。



SSRお役立ちリンク集

法令

○教育機会確保法

文部科学省

○「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（令和元年10月）

○不登校等児童生徒への支援についての法律「教育機会確保法」って何？
（令和5年10月）

○「生徒指導提要」（令和4年12月）

○「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」（令和5年3月）

○令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果及びこれを踏まえた緊急対策等について（通知）（令和5年10月）

SSR、不登校トピック

○不登校の子ども支援充実へ 滋賀県の協議会が初会合（令和6年6月）

○COCOLOプランとは 不登校の現状と誰一人取り残さない教育に向けた課題（令和6年6月）

滋賀県

○しがの学びと居場所の保障プラン（令和6年3月）

○滋賀の子ども達の社会的自立を支える学校教員向け不登校の理解と対応リーフレット（令和6年4月改訂）

○令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査等の結果（滋賀）（令和5年10月）

他県の取組

NEW!! ○不登校などの小中学生を支援 広島県教委「最適な学びを」（令和4年4月）

NEW!! ○不登校の予防としての初期対応のための 具体的取組と校内支援体制の在り方 — 不登校等児童生徒支援指定校（中学校）の実態調査を通して —（令和元年 広島県立教育センター）

